共同研究

（二〇一六年一〇月一日～二〇一七年三月三一日）

戦後日本文化再考

（研究代表者　坪井秀人、幹事　磯前順一）

〔共同研究者名〕

浅野麗、石川巧、岩崎稔、大原祐治、岡田秀則、辛島理人、狩俣真奈、川口隆行、北中淳子、北原恵、木村朗子、紅野謙介、高榮蘭、五味渕典嗣、斉藤綾子、佐藤泉、尹芷汐、塩野加織、島村輝、申知瑛、菅野優香、鈴木勝雄、張政傑、長志珠絵、十重田裕一、鳥羽耕史、戸邉秀明、成田龍一、野上元、朴貞蘭、橋本あゆみ、福間良明、松原洋子、水川敬章、光石亜由美、美馬達哉、村上陽子、李承俊、鷲谷花、渡辺直紀、渡邊英理、沈熙燦、郭南燕、北浦寛之、石川肇、王莞晗、栄元、増田斎、田村美由紀、杉田智美

〔海外共同研究員名〕

酒井直樹、五十嵐恵邦、キャロル・グラック

〔研究発表〕

〈第一〇回研究会〉

二〇一六年一〇月一日

パネル発表「暴力、記憶、公共性――高度経済成長期の思想文化」

岩崎　稔「学生運動の死と暴力――夭折する青春像の捻じれ」

渡邊英理「暴力と公共性――中上健次、路地の思想文学」

二〇一六年一〇月二日

李　承俊「〈内向の世代〉再考――〈空間〉から再び〈時間〉〈〉」

岡田秀則　映画上映、解説「《労働》の発見――映画集団『青の会』とスポンサード映画の超克」

〈第一一回研究会〉

二〇一六年一二月三日

パネル発表「戦後日本文化と〝アジア〟――複眼的な歴史に向けた準備作業」

鈴木勝雄　映画上映、解説「一九七〇年代のテレビ・ドキュメンタリーとアジア」

二〇一六年一二月四日

辛島理人「日本・アジア関係からみる戦後文化」

杉田智美「戯曲が語るアジアの女たち―宮本研の引き揚げ／母／戦後」

北原　恵「『戦争画』概念を問い直す――戦後日本における言説・研究史の再検証」

浪花節の生成と展開についての学際的研究

（研究代表者　真鍋昌賢、幹事　細川周平）

〔共同研究者名〕

芦川淳平、上田学、北川純子、薦田治子、諏訪淳一郎、時田アリソン、馬場美佳、兵藤裕己、細田明宏、森谷裕美子、早稲田みな子、渡瀬淳子、延広真治、古川綾子

〔海外共同研究員名〕

瀬戸智子、朴英山

〔研究発表〕

二〇一六年一二月二六日

〈第四回研究会〉

朴　英山「朝鮮語浪花節『壮烈李仁錫上等兵』をめぐって」

兵藤裕己「明治期の語り物芸能としてのデロレン祭文、そして浪花節」

二〇一六年一二月二七日

上田　学「活弁レコードにみられる浪花節との関連性―ボン大学のコレクションから―」

〈第五回研究会〉

二〇一七年二月一九日

瀬戸智子「『都新聞』と社会主義刊行物にみる日露戦争後の浪花節」

浪曲資料（映像・音源）の紹介

二〇一七年二月二〇日

細川周平「戦前昭和の股旅物―浪曲と流行歌」

戦争と鎮魂

（研究代表者　牛村　圭、幹事　ジョン・ブリーン）

〔共同研究者名〕

岩崎徹、大東和重、加藤めぐみ、川村覚文、川本玲子、栗原俊雄、古田島洋介、小堀馨子、佐伯順子、谷口幸代、竹村民郎、等松春夫、永井久美子、西原大輔、眞嶋亜有、吉井文美、吉田優貴、末木文美士、堀まどか、朴美貞、平松隆円、今泉宜子、稲賀繁美、倉本一宏、松田利彦、劉建輝、磯前順一、郭南燕、西田彰一、南直子

〔海外共同研究員名〕

徐載坤、ケビン・ドーク、エヤル・ベンアリ、金志映

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一七年一月六日

倉本一宏「白村江の戦いの鎮魂」

堀まどか「帰還者による戦後文学のなかの『鎮魂』――石原吉郎、甲斐弦、小林勝を中心に戦後の空気を考える――」

〈第三回研究会〉

二〇一七年三月二七日

（所外開催　聖徳記念絵画館・東京大学駒場キャンパス内ファカルティハウス・セミナー室）

聖徳記念絵画館・調査

特別講演

平川祐弘（ゲストスピーカー）「戦死者のために祈る詩」

全体討論

画像資料（絵葉書・地図・旅行案内・写真等）による帝国領域内文化の再検討

（研究代表者　劉　建輝、幹事　北浦寛之）

〔共同研究者名〕

李応寿、安藤潤一郎、井村哲郎、岡本貴久子、上垣外憲一、岸陽子、小林茂、小林善帆、呉孟晋、白幡洋三郎、姜克実、鈴木貞美、戦暁梅、単援朝、塚瀬進、鳥谷まゆみ、根川幸男、松宮貴之、森田憲司、李相哲、劉岸偉、仲万美子、蔡敦達、呉京煥、陳凌虹、鄭在貞、王确、井上章一、稲賀繁美、伊東貴之、松田利彦、森洋久、韓錫政、陳其松、小園晃司、石川肇

〔海外共同研究員名〕

王中忱、孫江、徐興慶

〔研究発表〕
〈第六回研究会〉
二〇一六年一二月一六日
上垣外憲一「石原莞爾の漢口時代（一九二〇～二一）―その東亜観の形成」
バーバラ・ハートリー（ゲストスピーカー）「大陸の空間における女性の身体」
二〇一六年一二月一七日
唐　権「日清戦争期の得勝図について」
〈第七回研究会〉
二〇一七年三月七日
（所外開催　ハートピア京都）
講演「ヴィジュアル資料が映し出す―帝国期日本の文化と社会」
司会　佐野真由子
ケネス・ルオフ（ゲストスピーカー）「移動する帝国―戦時観光と絵葉書」
劉　建輝「従軍画家が描いた帝国のフロンティア」
コメンテーター　バーバラ・ハートリー
二〇一七年三月八日

張　明傑（ゲストスピーカー）「写真が伝える越境学術―日本人による清末民国初期の中国撮影を兼ねて」
官　文娜（ゲストスピーカー）「近代日中服飾文化の比較的研究―中流家庭の裁縫を中心に」
栄　元（ゲストスピーカー）「租借地大連における日本語新聞の事業活動―満洲日日新聞社による『在満児童母国見学団』を中心に」

説話文学と歴史史料の間に

（研究代表者　倉本一宏、幹事　榎本　渉）
〔共同研究者名〕
東真江、石川久美子、上野勝之、内田澪子、大橋直義、尾崎勇、追塩千尋、加藤友康、川上知里、木下華子、小峯和明、佐野愛子、佐藤信、関幸彦、五月女肇志、曾根正人、多田伊織、蔦尾和宏、中村康夫、野上潤一、野本東生、樋口大祐、藤本孝一、古橋信孝、保立道久、前田雅之、松薗斉、三舟隆之、山下克明、横田隆志、白雲飛、呉座勇一、グエン・ヴー・クイン・ニュー、榎本渉、荒木浩、井上章一、中町美香子、谷口雄太、龔婷

〔海外共同研究員名〕
グエン・テイ・オワイン、宋浣範、劉暁峰、魯成煥
〔研究発表〕
〈第四回研究会〉
二〇一六年一二月一〇日
尾崎　勇「源頼朝の旗揚げをめぐる説話の側面―『愚管抄』と『平家物語』とのあいだ―」
五味文彦（ゲストスピーカー）「説話と日記の間」
宋　浣範「『三国遺事』にみえる災害と救済」
二〇一六年一二月一一日
蔦尾和宏「『古事談』巻一巻頭話考」
野本東生「『古今著聞集』巻第十三「哀傷第廿一」考」

3・11以後のディスクール／『日本文化』

（研究代表者　ミツヨ・ワダ・マルシアーノ、幹事　坪井秀人）
〔共同研究者名〕
石田美紀、久保豊、谷川建司、木村朗子、川口隆行、クリスティーナ・岩田ワイケナント、清水晶子、高橋準、菅野優香、出口康夫、水谷雅彦、一ノ瀬正樹、近森高明、西村大志、松浦雄介、アンニャ・ホップ、安本真也、須藤遙子、馬然、木下千花、大塚英志、北浦寛之、長門洋平
〔海外共同研究員名〕
王向華、金普慶
〔研究発表〕
〈第二回研究会〉
二〇一六年一一月二六日
映画上映『波のした、土のうえ』
井出　明（ゲストスピーカー）「東日本大震災とダークツーリズムについて」
二〇一六年一一月二七日
木村朗子「震災文学のホントロジー」
岡村幸宣（原爆の図丸木美術館・学芸員）トーク
卯城竜太（現代アートグループ Chim↑Pom・リーダー）作品発表
〈第三回研究会〉
二〇一七年一月二八日
長門洋平「『風立ちぬ』（宮崎駿監督　二〇一三年）のテクスト分析」
谷川建司「震災・原発事故の事実と距離を保ちこれを後景に置いた映画作品から震災後の日本を考える」

ミツヨ・ワダ・マルシアーノ「The Radioactive Art Exhibitions: No One Can Go and See It」

二〇一七年一月二九日

高橋　準「〈想像〉の中の原子力／放射線――日本ＳＦ／ファンタジーを読み直す」

木下千花「母体の『環境化』と可視／不可視性」

〈第四回研究会〉

二〇一七年三月一〇日

（所外開催　せんだいメディアテーク・農家民宿いちばん星）

せんだいメディアテーク見学

クリスティーナ・岩田ワイケナント「転換期のフクシマ：柳美里の場合」

柳美里とクリスティーナ・岩田ワイケナントによるディスカッション

二〇一七年三月一一日

（所外開催　石巻市新蛇田公営住宅集会所）

被災者追悼式参加、僧侶・金田諦應氏の講演

二〇一七年三月一二日

（所外開催　ホテルニュー水戸屋）

一ノ瀬正樹「震災関連死の原因について」

近森高明「集合的記憶の媒体としてのモノ―痕跡とモニュメントという視点から」

比較のなかの東アジアの王権論と秩序構想 ―王朝・帝国・国家、または、思想・宗教・儀礼―

（研究代表者　伊東貴之、幹事　倉本一宏）

〔共同研究者名〕

青木隆、新井菜穂子、井上厚史、恩田裕正、垣内景子、橘川智昭、権純哲、小島毅、関智英、末木文美士、銭国紅、竹村英二、竹村民郎、田尻祐一郎、土田健次郎、永冨青地、西澤治彦、長谷部英一、林文孝、松下道信、水口拓寿、横手裕、李梁、吾妻重二、新田元規、石井剛、伊藤聡、井ノ口哲也、内山直樹、遠藤基郎、大久保良峻、苅部直、黒岩高、岸本美緒、児島恭子、近藤成一、佐々木愛、杉山清彦、高柳信夫、葭森健介、保立道久、李暁東、本間次彦、松野敏之、石川洋、澤井啓一、渡邊義浩、前田勉、渡辺美季、平野千果子、中純夫、古勝隆一、茂木敏夫、井上章一、瀧井一博、ジョン・ブリーン、松田利彦、劉建輝、榎本渉、フレデリック・クレインス、マルクス・リュッターマン、佐野真由子、山村奨

〔海外共同研究員名〕
張啓雄、葛兆光、手島崇裕、ベンジャミン・A・エルマン
〔研究発表〕
〈第四回研究会〉
二〇一六年一一月一九日
長谷部英一「中国古代における受命改暦思想について」
李　済滄（ゲストスピーカー）「南朝の貴族制と皇帝権力――〝門地二品〟と〝二品才堪〟を手がかりとして――」
葭森健介「中国の天下観と東夷の王権――『漢書』地理志から『隋書』東夷伝へ――」
〈第五回研究会〉
二〇一七年三月一三日
（所外開催　東京大学史料編纂所・文学部）
東京大学史料編纂所見学・史料閲覧
倉本一宏「日本古代君主論をめぐって」
保立道久「日本宗教史と老子――和光同塵と「善人なおもて往生す」について」

万国博覧会と人間の歴史

（研究代表者　佐野真由子、幹事　井上章一）
〔共同研究者名〕
石川敦子、市川文彦、岩田泰、鵜飼敦子、江原規由、神田孝治、澤田裕二、寺本敬子、中牧弘允、芳賀徹、増山一成、武藤秀太郎、武藤夕佳里、橋爪紳也、林洋子、稲賀繁美、瀧井一博、劉建輝
〔海外共同研究員名〕
青木信夫、ウィーベ・カウテルト、シビル・ギルモンド、徐蘇斌
〔研究発表〕
〈第三回研究会〉
二〇一六年一〇月八日
森誠一朗・岸田匡平（ゲストスピーカー）【書評と展望⑤】
陣内秀信（ゲストスピーカー）【書評と展望⑥】
二〇一六年一〇月九日
集中セッション　アスタナ国際博覧会をめぐって
藤本透子（ゲストスピーカー）「カザフスタンの文化と社会」
井上　学（ゲストスピーカー）「二〇一七年アスタナ国際博覧会への日本政府参加について」

江原規由「中国と万博――アスタナ博とドバイ博をみる一視点」
今後の活動計画について、全員討論
〈第四回研究会〉
二〇一六年一二月一七日
ソウル番外編研究会（international Symposium “Expo Landscape”）報告
市川文彦「今後の研究展望――万博の制度論としての展示スタイルと褒賞制」
今後の活動――「万博学の構築」に向けて、全員討論
二〇一六年一二月一八日
木田拓也（ゲストスピーカー）【書評と展望⑦】
牧原　出（ゲストスピーカー）【書評と展望⑧】
〈第五回研究会〉
二〇一七年二月二五日
佐藤一信（ゲストスピーカー）【書評と展望⑨】
井上さつき（ゲストスピーカー）【書評と展望⑩】
ユク・ヨンス（ゲストスピーカー）「フランスと日本は一九三一年パリ植民地博覧会でヴェトナムと韓国をどう表象したか――植民地近代を再考する」
二〇一七年二月二六日
森　栄子（ゲストスピーカー）「二〇二五年大阪万博誘致事業の進捗状況について」
来年度以降の活動計画について、全員討論

差別から見た日本宗教史再考―社寺と王権に見られる聖と賤の論理

（研究代表者　磯前順一、幹事　北浦寛之）
〔共同研究者名〕
吉村智博、佐藤弘夫、鈴木岩弓、小倉慈司、片岡耕平、鈴木英生、小田龍哉、川村覚文、山本昭宏、青野正明、沈熙燦、高柳健太郎、田辺明生、苅田真司、舩田淳一、太田恭治、浅居明彦、水内勇太、鍾以江、島薗進、佐々田悠、寺戸淳子、金沢豊、西宮秀紀、井上智勝、舟橋健太、幡鎌一弘、鶴見晃、河井信吉、上村静、安部智海、竹本了悟、パトリシア・フィスター、マルクス・リュッターマン
〔海外共同研究員名〕
智恵・シュタイネック、ラジ・シュタイネック、ランジャナ・ムコパディヤーヤ
〔研究発表〕

〈第三回研究会〉
二〇一六年一〇月一五日
（所外開催　大阪人権博物館（リバティおおさか））
リバティおおさか見学
山本昭宏「網野『無縁・公界・楽』の検討」
コメント：片岡耕平
フィールドワーク：浪速部落と釜ヶ崎・飛田地区（案内：浅居明彦・吉村智博）
二〇一六年一〇月一六日
水内勇太「エリアーデ聖俗論について」
コメント：寺戸淳子
〈第四回研究会〉
二〇一六年一二月一七日
互盛央『日本人であるために』を読む（司会：山本昭宏）
苅田真司「政治理論の観点から」
鶴見　晃「現場の視点から①」
金沢　豊「現場の視点から②」
網野論を読む（司会：佐々田悠）
小田龍哉「網野『中世身分制の一考察』論評」
高柳健太郎「網野『古代・中世の悲田院をめぐって』論評」
〈第五回研究会〉
二〇一七年二月一八日
磯前順一「来年度の新体制について」（司会：小田龍哉）
磯前順一「討論の仕方の問題点」（司会：金沢豊）
磯前順一・佐々田悠・小田龍哉・片岡耕平・高柳健太郎・山本昭宏「討論内容の再検証」（司会：舩田淳一）
全体討論

〈国際共同研究〉
植民地帝国日本における知と権力
（研究代表者　松田利彦、幹事　瀧井一博）
〔共同研究者名〕
飯島渉、岡崎まゆみ、小野容照、加藤聖文、加藤道也、河原林直人、川瀬貴也、栗原純、愼蒼健、通堂あゆみ、アルノ・ナンタ、春山明哲、松田吉郎、宮崎聖子、やまだあつし、長沢一恵、李昇燁、中生勝美、稲賀繁美、劉建輝
〔海外共同研究員名〕
陳姃湲、李炯植、洪宗郁、山本浄邦（邦彦）、宋炳巻、鄭駿永、顔杏如、呉叡人、何義麟

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一六年一二月一八日

川瀬貴也「雑誌『朝鮮仏教』誌上における日朝仏教の葛藤」

宮崎聖子「植民地期台湾における青年期教育をめぐる知の標準化」

春山明哲「法学者・岡松参太郎の台湾経験と知の射程―植民地統治と「法の継受」をめぐって―」

松田利彦「志賀潔とロックフェラー財団―京城帝国大学医学部長時代の植民地朝鮮の医療衛生改革構想を中心に―」

鄭　駿永「植民地医学と朝鮮人受刑者―京城帝大精神医学教室の研究活動を中心に」

来年度国際研究集会についての相談

二〇一六年一二月一九日

通堂あゆみ「〝ポツダム博士〟にみる帝国の解体と学知」

長沢一恵「戦前期の社会政策法制をめぐる一考察―鵜飼信成と「社会行政法」を中心に―」

〈第五回研究会〉

二〇一七年二月一一日

小野容照「朝鮮民族運動とアジア主義：李達の思想と活動」

李　容相（ゲストスピーカー）「朝鮮総督府鉄道官僚の特徴と朝鮮認識」

愼　蒼健（ゲストスピーカー）「同時代朝鮮人医学者の距離：生理学者・李甲洙と優生学者・李甲秀」

宋　炳巻「東洋社会論と二つの主体」

中生勝美「領台湾初期の原住民調査」

やまだあつし「高等農林学校の植民地知識―鹿児島高等農林学校を中心に」

来年度国際研究集会についての相談

日本語の起源はどのように論じられてきたか―日本言語学史の光と影

（研究代表者　長田俊樹、幹事　井上章一）

〔共同研究者名〕

斎藤成也、安田敏朗、狩俣繁久、千田俊太郎、風間伸次郎、永澤済、児玉望、菊澤律子、林範彦、アンナ・ブガエワ、福井玲、伊藤英人、鈴木貞美、マーク・ハドソン、平子達也、杉山豊

〔海外共同研究員名〕
トマ・ペレール、ジョン・ホイットマン、アレキサンダー・ヴォヴィン
〔研究発表〕
〈第五回研究会〉
二〇一七年一月七日
千田俊太郎「パプア諸語と日本語の源流」
林　範彦「パーカーと西田龍雄―日本語の起源をチベット・ビルマ諸語に求めた2人の言語学者―」
永澤　済「日本語史研究における実用文書資料の可能性―和化漢文の分析を例に―」
共同研究のまとめについて
二〇一七年一月八日
菊澤律子「書評　松本克己著『世界言語の中の日本語―日本語系統論の新たな地平』『世界言語への視座―歴史言語学と言語類型論』（いずれも三省堂）」
アンナ・ブガエワ「東北アジア言語の観点から見たアイヌ語の言語類型論的考察」
マーク・ハドソン「琉球・千島列島におけるヒトの居住、社会ネットワークと言語の歴史」

投企する古典性―視覚／大衆／現代
（研究代表者　荒木浩、幹事　稲賀繁美）
〔共同研究者名〕
飯倉洋一、伊藤慎吾、上野友愛、岡田圭介、河東仁、恋田知子、河野貴美子、河野至恩、合山林太郎、齋藤真麻理、竹村信治、中野貴文、中前正志、野網摩利子、三戸信恵、箕浦尚美、山本陽子、渡部泰明、渡辺麻里子、アンダソヴァ・マラル、石上阿希、呉座勇一、土田耕督、徳永誓子、漆崎まり、ゴウランガ・チャラン・プラダン、チャン・ティ・チュン・トアン、ガリア・トドロヴァ・ペトコヴァ
〔海外共同研究員名〕
楊暁捷、山藤夏郎、李愛淑
〔研究発表〕
〈第三回研究会〉
（所外開催　慶應義塾大学三田キャンパス）
二〇一六年一二月三日
石上阿希「二〇一六年ロンドン調査・見聞報告」
渡辺麻里子「寺院資料調査の意義と記家文字資料」
二〇一六年一二月四日

飯倉洋一「国際的くずし字教育の現状と展望―学習アプリKuLAの利用を中心に―」

〈第四回研究会〉

〈特集〉対論的シンポジウム―絵巻と漫画をめぐる

二〇一七年一月二一日

山本陽子「絵巻はマンガの祖先か?―絵巻とマンガの表現を比較する―」

佐々木果（ゲストスピーカー）「漫画の成立における欧米の影響と日本語の問題」

ディスカサント：楊　暁捷・李　愛淑

二〇一七年一月二二日

竹村信治「学校の古典―投企のカタチ―」

ディスカサント：山藤夏郎

（文責：研究協力課）

基礎領域研究

韓国語運用の応用（継続）

代表者　松田利彦

概　要　研究その他の業務で韓国語を必要とするものに対し、会話、読解、聴解の習得を目指した授業を行う。

古記録学基礎研究（継続）

代表者　倉本一宏

概　要　日本前近代の根幹的史料である古記録の解読を、原本や写本の見方・扱い方も含めて考えていく。大学院生・教職員・他大学の院生・研究者の参加も歓迎する。

フランス語基礎運用（初級）（継続）

代表者　稲賀繁美

概　要　初心者を対象として、初歩の運用能力を実践的に身に付ける。教科書としては当該年度のＮＨＫラジオ講座教材の準備を参加者各自にお願いする。他の教材は現場で提供する。

フランス語読解補助・論文作成指南（中級）（継続）

代表者　稲賀繁美